

原子力規制検査の効率的運用および検査官の能力向上等に関する調査研究

(1) ヒアリング調査及びインタビュー調査の結果

Research on Efficient Operation of Nuclear Regulatory Inspection System and Improvement of Inspectors' Competence (1)Results of Hearing and Interview Surveys

*江藤 淳二¹, 杉野 弘樹¹, 小野寺 将規¹, 藤山 翔乃¹, 中島 清¹, 義澤 宣明¹, 鈴木 清照¹

¹三菱総合研究所

2020年4月から施行された原子力規制検査制度について、定着状況（理解度、習熟度など）を把握することに加え、制度の運用開始によって浮き出てきた問題点、要改善点や良好事例などを収集してとりまとめ、これらを元に検査官能力の向上、検査の効率的な運用等を図ることを目的として、検査業務などに携わる職員を対象としたアンケート調査及びインタビュー調査を実施した研究成果について報告する。

キーワード : Nuclear regulatory inspection, Reactor oversight process, Risk-informed, Performance-Based

1. 緒言

2020年4月から施行された、米国原子力規制委員会（NRC）の原子炉監視プロセス（ROP）を参考にパフォーマンスベースト/リスクインフォームドのコンセプトを取り入れた原子力規制検査について、特に導入当初において検査業務の直接の担い手である検査官が業務を行う際に困難を伴うことが予想され、アンケート調査及びインタビュー調査を実施して、定着状況（理解度、習熟度など）を把握することに加え、制度の運用開始によって浮き出てきた問題点、要改善点や良好事例などを収集してとりまとめた。

2. 実験

検査業務を行っている検査官等を対象に、アンケート調査（自由記述を含む）での設問大項目6項目（66の小項目質問）を設定し、webアンケート調査を匿名にて実施した。また、アンケート回答を具体的に補足可能なインタビュー項目を設定し、インタビュー形式による聞き取り調査を実施した。

3. 結果・考察

Figure.1に原子力規制検査の4つの基本コンセプト（パフォーマンスベースト、リスクインフォームド、フリーアクセス、改善措置活動（CAP: Corrective Action Program））についての理解に関する調査結果を示す。調査結果から Knowledge(知識)としての理解は定着していることが確認でき、今後は Skills(実践)や Attitudes(姿勢)の深堀り調査へ展開することが挙げられる。

本調査研究は、原子力規制庁の「令和2年度原子力施設等防災対策等委託費（原子力規制検査の効率的運用、検査官の能力向上等に関する調査）」として行われたものである。また、本稿は著者の意見を表明したものであり、必ずしも原子力規制庁の見解を反映したものではない。

参考文献 原子力規制委員会ホームページ, 原子力規制検査に関する文書, 検査制度の自己評価に関する文書, 令和2年度原子力施設等防災対策等委託費(原子力規制検査の効率的運用、検査官の能力向上等に関する調査)報告書

(https://www2.nsr.go.jp/activity/regulation/kiseikensa/guide_index.html)

*Junji Eto¹, Hiroki Sugino¹, Masaki Onodera¹, Shono Fujiyama¹, Kiyoshi Nakajima¹, Nobuaki Yoshizawa¹, Kiyoteru Suzuki¹

¹Mitsubishi Research Institute, Inc.

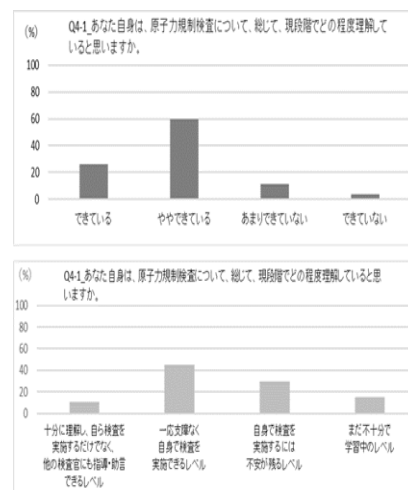


Fig.1 原子力規制検査について総じての理解度（上段（2020年度）n=178、下段（2019年度）n=190）